

○議長（前原英石君） 5番 森 弘秋君。

○5番（森 弘秋君） 5番森です。

先ほど田村議員からマイナンバーカードの質問がありました。マイナンバーカードのキャラクターのマイナちゃんが嘆いておりましたので、私も村長に確認しました。そして、村では、そんな不穏な動きはないということでした。現在はどうかと聞きましたら、今もないというふうなことでしたので。

また、話は別ですけども、呉羽丘陵、県道をまたぐ計画があります。フットパス。過日6月29日の新聞報道によりますと、呉羽丘陵フットパスのつり橋工事が9割完成しましたと。私は、何でこんな遠大な構想が生まれたか、そして現実になったか。ちょっと一般的には想像がつかない。当初、20年ほど前ですかね、そういった計画があったときに、え、こんなことがあるんかいなというふうに思ったのですが。それで、私はちょっと想像できんことだったんですが、けども現実になったと。

それで、私がこれから述べる京坪川に架ける歩道橋の提案なんて、これから見ればちっちゃな、ちっちゃな話なんです。けども、必要だろうということで、あえて質問いたします。

そういった中で、市役所の公園緑地課に出向き、呉羽丘陵フットパスの概略について教えてもらいました。発想は、平成15年、若者やボランティア関係者などによる呉羽丘陵利用促進検討委員会及び周辺の地元代表者から成る呉羽丘陵利用促進計画地元連絡協議会の意見を踏まえ、呉羽丘陵利用促進計画において、呉羽山、城山の間に歩行者専用の散策路の立案がなされた。

施設は全長15キロメートルに及ぶフットパス、歩行者専用の道路ですね、と聞きました。これは市民のレクリエーションや健康増進に寄与すると考え、整備計画検討委員会が設置され、令和2年度から令和5年度まで、工事費14億3,000万円をかけ、令和8年6月に完成を見るそうです。富山市単独事業だそうです。言うてみりゃ、苦節十何年の願望が実るわけであります。

ただ、14億3,000万円の中には両サイドの附帯工事が含まれておりませんので、まだ若干増えるだろうというふうに聞いております。詳細は分かりませんが。

そこで提案ですが、以前も私、言ったんですが、平成27年の6月議会で、こんなことを言いました。先ほど言いましたように、京坪川と河川公園の中間に、もう一つユニークな橋を架ければよいと。村民が活動しやすくなるのではないかと。オレンジ・パーク

舟橋の利用が増えるのではないだろうか」と提案しました。

時の答弁は、県は、橋をかけては絶対ならんとのことでした。よく分かりませんが、陸橋として許可することはできないけれども、村が管理する歩道橋として設置するのであれば、橋梁構造に合致することを条件に許可ができるとのことでした。また、これにつきましては、協議に応じるとのことでした。これは確認済みです。

京坪川河川公園の中間にもう一つユニーク橋を架ければ、村民が活動しやすく、オレンジ・パーク舟橋の利用が増えるのではないだろうか。

オレンジ・パーク舟橋での令和4年度行事を調べてもらいました。5月7日、キッチンカーグルメフェア、利用者1,333人。8月21日には2回目のキッチンカーグルメフェア、800人の利用者。そして、月イチ園むすび、6月5日、7月3日、9月4日、10月9日及び11月6日と、5回の開催、延べ2,720人の利用でした。合計4,853人の利用です。

そのほか、あしたの森公園、オレンジ・パークですね、に訪れる人、テニスコートを利用する人、多種多様の村民が利用・活用されている。もっともっと活用していただきたい。そのためにも利用しやすい施設にすることが必要です。

先般新聞に出ておりましたが、村長に確認しましたが、ガイドードリンコ北陸社と、災害時に無料で飲料を提供できる災害対応型自動販売機をオレンジ・パークに設置したとの報道でした。災害時の飲料が確保されたと考えます。

現地に行きまして、確認をいたしました。大きなのがありましたね。

このことから、公園の入り口が、稲荷古海老江線、消防屯所横の道路、正確な名前は分かりませんが、一応間が約500メートル離れていると思います。災害時の避難等々を考えると、安全・安心のためにも一挙両得ではありませんか。

舟橋村民は、まだまだ地元の方々、新しく村民になられた方々の融合が難しいことは今に語られたことではありません。最近ようやく融合の兆しが見えてきました。先日のふなはしまつりもそうです。何と若い方が多いことか、多く参加です。若いご夫婦が小さな子どもさんと一緒に遊んでおられる姿には感謝感激ですね。

個人ごとですけれども、8月に村民ゴルフ大会がありました。年齢にむちを打って参加しました。新しく村民になられた方が多数の参加者です。

このように交わりを多くするための仕掛けが必要です。そこで、再度提案します。

京坪川河川公園の中間にもう一つユニーク橋を架ければ、村民の活動を促します。さ

らに、このことにより、緊急避難にも大いに役立つことは述べたとおりです。

私が提案しましたあれから10年。時代は日進月歩、進化しています。村の人口も2015年から約300人増え、現在は3,200人余りに大幅に増え、かつ小さな子どもたちがあふれています。

ますますあしたの森公園のオレンジ・パーク舟橋を利用する子どもらも増えてまいります。今まで以上、防災意識の高揚が必要であります。歩道橋の新設により、防災に係る避難場所として中学校駐車場、舟橋会館に避難が可能となります。

今こそユニークな橋を架け、諸活動、観光、避難等に利活用できる。いかがですか。早ければ早いほど利便性が高まります。

徳川家康の番組じゃありませんけど、村長、どうしますか。どう検討するか。村長の前向きな答弁を期待します。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 5番森議員のオレンジ・パーク利用促進に係る施策について答弁をさせていただきます。

オレンジ・パーク舟橋では、子育てパークマネジメント事業として平成29年度から取組を行っており、公園緑地を使いこなす方法や体制づくり、地域と企業と行政が一体となったにぎわいの創出、子どもから高齢者までが一緒になって楽しむことができ、様々なつながりを生むことを目的に事業を実施してまいりました。

ここ数年は村内のみならず、村外より多くの方々にご来場いただき、月イチ園むすびをはじめ、にぎわいのある公園になってきております。

あわせて、オレンジパークは災害時の避難所及び防災拠点として指定されており、Wi-Fiや電気設備も整備を進めており、先般は、今ほど森議員のご指摘いただきました災害ベンダーの設置も実施したところでございます。

歩道橋につきましては、公園の中央部分につながる場所であれば、人の動線という観点において利便性が向上するというご指摘であるかと思えます。

歩道橋を設置する場合、村道海老江東芦原線を横断するための横断歩道の設置や河川管理者である県と協議する必要があるほか、村単独での設置は財政的にも困難であるため、国の補助等も検討する必要があるとございます。

特に道路横断や河川を横断する場合は安全の確保が最重要となりますので、横断歩道前後の安全な滞留場所の確保についても様々な点から検討する必要があるとございますので、

関係機関と慎重に検討を進めながら、設置の可能性について検討していきたいと考えております。

平成27年6月議会以来、改めて森議員のご質問をいただきましたので、前向きに検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

ご理解のほど、よろしく願い申し上げますとともに、今後とも公園で行う事業に関心を持っていただけますことをお願い申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（前原英石君） 森 弘秋君。

○5番（森 弘秋君） 今ほど村長の、前向きに検討というふうにおっしゃいました。少々喜んでおりますけど、あしたに分からんという感じですね。

ただ、富山市は市単独事業でやっていましたけども、今村長が言ったように、舟橋村はやっぱり補助事業にしていかなければ財政面が追いつかないというふうに思っております。

したがって、この後、もしも具体化になるとするならば、補助事業として国、県なりのお金をもらうと。補助事業ということにしなきゃならんと。そうでないと事業にならんというふうに思います。

そこで、まず調査費、設計料。工事費は別ですけども、まだ後になりますが、調査費とか設計費をなるべく早く予算化して、調査して、やっぱり駄目だということがあり得るわけですから、若干の調査費が無駄になるかもしれませんが、まず調査してみることが大事だと思います。よろしく願います。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 森議員の再質問にお答えをさせていただきます。

調査費ということでご指摘がございましたが、しかるべきタイミングで調査費を計上して、調査が必要だというふうに判断できれば、予算計上のほうも必要なのかなというふうに思っております。

その前段として、もろもろ、こういった国、県等の補助を検討するに当たって、どういったものがあるものかということは、調査費がかからない範囲でも実施できるものと思いますので、そういった部分であったり、法令の部分ですね。川に歩道橋を設置する際にこういった法令に抵触するのか、河川管理者の県とも確認を取りたいというふうに思います。

以上でございます。